

臨床解剖（同実習を含む）

Clinical Anatomy (Practical Regional Anatomy)

シリーズ・実習責任者：解剖学 特任教授 平田 和明

1. シリーズ・実習概要・学習内容

臨床解剖学においては、第3学年までに学習した基礎医学科目・臨床医学科目の知識を土台にして、臨床的に重要な局所構造および各疾患に関連した人体構造と機能を再確認する。臨床解剖学実習で習得した知識と技能を活かし、向後始まる臨床実習(BSL)を充実させ、スチューデント・ドクターとして大きく成長し、卒後医師として高いレベルの臨床研修にスムーズに移行し、発展していくことを目的とする。

2. 到達目標

- 1) 臨床各科の臨床実習(BSL)で必要とされる重要な局所解剖学的構造を説明できる。
- 2) 臨床系講義で学習した各疾患と局所構造と機能の関連性を説明できる。
- 3) 正常な画像解剖学および各疾患の画像を理解し、説明できる。
- 4) 第2学年のマクロ形態学実習で学習した全身の人体構造の知識を再確認し、十分に説明できる。

3. 学習上の注意点

- 1) 実習に際しては、ご遺体に対して心からの礼意と尊敬の念を持って臨むことが肝要である。我々が解剖させて戴けるのは、故人・ご遺族ならびに関係各位のご理解とご協力の賜であることを銘記すべきである。

解剖学実習室においては「最良・最上の教師はご遺体」である。

- 2) 第3学年までに習得した人体の正常構造・機能および臨床系各科の疾患に関する知識をもとに、2度目となるご遺体を用いた臨床解剖学実習により、各疾患および臨床的重要事項と人体局所構造との有機的関連性の理解を深める。

ご遺体は臨床実習(BSL)を直前にした学生諸君にとって初めての患者である。単に形態学的知識だけでなく、ご遺体を前に自らの非力を悟り、生命の尊厳や医の倫理について改めて考え、臨床実習に臨む医学生としての目的意識・問題意識を再自覚することが重要である。

- 3) 毎回の学習は、1限はレポート作成、2限・3限は配布プリントを用いた実習講義を行う。レポートは毎回2~3テーマ（総計30テーマ）を作成する。テーマは自由であるが、臨床的重要事項および疾患と関連付けて自学自習の精神を存分に発揮し、充実した内容のレポートを作成することが重要である。午後の実習において、各テーマ・講義内容に関する局所構造・機能を詳細に確認し、理解を深める学習姿勢を常に心掛ける。

4. 教科書・参考書

教科書：『解剖実習の手びき』（南山堂）

参考書：『グレイ解剖学』（エルゼビア・ジャパン）

（書評）詳しく優れた局所解剖学書（胸部、腹部などの部位ごとの記述）である。高学年の臨床解剖学の学習に適している。

『臨床のための解剖学』（メディカル・サイエンス・インターナショナル）
（書評）グレイ解剖学と同様に詳しく優れた局所解剖学書である。特に臨床関連事項の記載が豊富であり、高学年の臨床解剖学の学習に適している。

『ケリー MRI 解剖学』（丸善出版）

（書評）MR・CT 画像と解剖図が対応しており、画像解剖の理解に最適。

『プロメテウス解剖学アトラス』（医学書院）

（書評）詳細な記載と美しい解剖図が素晴らしい本格的アトラス。

『岡嶋解剖学』（杏林書院）

（書評）伝統的な詳しく記述された系統解剖学書であり、人体解剖学を学ぶうえで必須の書籍である。索引が充実しており調べものにも向く。

『解剖学講義』（南山堂）

（書評）バランスの良い良書である。図が適度にあり、説明文の量も適当である。

『ネッター解剖学図譜』（丸善）

（書評）図譜集としては定番である。解説はないので、これだけでは勉強できない。

『図解 解剖学辞典』（医学書院）

（書評）コンパクトであるが、ほぼ解剖学の全用語の簡潔な説明と図が記載されている良書。

5. 成績評価

評価項目	実施回数	評価割合	備考
定期試験	1	(50%)	
レポート	30	(30%)	
ポートフォリオ	—	(10%)	
授業・実習態度	—	(10%)	

6. オフィスアワー

所属	役職	氏名	時間	場所	連絡先
解剖学 (人体構造)	特任教授	平田 和明	平日 12:30~13:30	医学部 5階解剖学講座	3517 (内) 講座秘書
同上	准教授	長岡 朋人	同上	同上	nagaoka
同上	講師	星野 敬吾	同上	同上	hoshino
同上	講師	水嶋 崇一郎	同上	同上	s_mizu
同上	助教	清家 大樹	同上	同上	hseike

メールアドレスは @marianna-u.ac.jp が省略